

課題別評価表(6)

取組課題	担当名／担当者名	評価方法	教職員アンケートを中心とする 教職員による自己評価 (項目により対象者の幅は異なる)
特別支援教育	特別支援教育担当(特別支援教育コーディネーター)／大矢部 朝子		
取組の柱	実態把握	達成度の判断基準	教職員の評価の平均
1 特別な支援を必要とする児童に対し、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行う。	担任を中心に児童の状況・実態を把握し、特別な支援を必要とする児童について個別指導計画を作成している。また、効果的な支援が見つければ指導計画に加筆して次の指導に生かしている。個別の指導計画を元に事例検討会や研修会で支援の方法を検討している。さらに、必要に応じて、担任・特別支援教育コーディネーターを中心に保護者との話し合い・専門機関との連携を大切にしながら支援を行っている。一人一人の児童に応じた、より適切な支援・指導には個別による指導が必要だが、支援を必要とする児童は年々増えており、きめ細やかな支援がしにくい場面もある。 このように限られた支援環境の中で支援・指導を行っていくためには、全教職員での共通理解と校内の支援体制の充実が必要である。	A : 3.5以上 4.0以下 B : 3.0以上 3.5未満 C : 2.5以上 3.0未満 D : 2.5未満	
2 全教職員で共通理解を図り、校内特別支援教育委員会を中心に学校全体で協力体制を組み、支援を行う。			

評価項目 (具体的な取組)	評価基準	達成度 ※網掛けは昨年度			
		中間	中間	年度末	年度末
1. 一人一人の児童に応じた支援・指導の充実を図る。	個別指導計画の目標に沿った支援や児童のニーズにあった対応ができた。(教職員アンケートからの評価)	3.5 A	3.6 A	3.7 A	3.7 A
2(1) 特別な支援を必要とする児童について、学校全体で共通理解を図る。	学年部会や生徒指導部会で、各学年の支援を必要とする児童について話し合ったことを、校内研修等の場で行い、共通理解を図ることができた。(教職員アンケートからの評価)	3.7 A	3.8 A	3.8 A	3.8 A
2(2) 学級担任が、特別な支援を必要とする児童の実態を把握するため個別指導計画を作成し、必要に応じて、校内特別支援教育委員会で検討する。	特別な支援を必要とする児童の個別指導計画を作成し、事例検討会をもつ。また、必要に応じて、校内特別支援教育委員会で検討することができた。	3.5 A	3.5 A	3.6 A	3.6 A
2(3) 一人一人の児童に応じた適切な支援を行うため、保護者や専門機関との連携を図る。	児童に適切な支援を行うため、必要に応じて保護者やスクールカウンセラー、専門機関などと連携することができた。(教職員アンケートからの評価)	3.6 A	3.6 A	3.8 A	3.8 A
2(4) 子どもの見方、指導の在り方など適切な支援を行うため、特別支援教育について研修を深める。	日々の指導や校内研修会、合同研修会などの場で、年間3回以上、特別支援教育について研修を行うことができた。	A	A	A	A

達成度については、A:十分に達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

中間評価		年度末評価		来年度への申し送り
9月末の達成状況	総合評価	12月末の達成状況	総合評価	
○特別な支援を必要とする児童については個別指導計画を作成している。そして日々、それぞれの目標達成に向け、個々に応じた支援をしている。7月にはその個別指導計画をもとに学年別に事例検討会をもち、2学期以降の支援について話し合った。また、必要に応じて校内特別支援委員会も開き、適切な支援方法、支援体制について話し合った。 ○学年会や生徒指導部会、職員会議で、支援を必要とする児童についての情報を共有すると共に、必要な場合には授業中の支援を行っている。 ○校内特別支援教育研修会、保幼小中合同特別支援教育研修会、特別支援学級の研究授業を行い児童理解・適切な支援について研修を深めた。 ○専門機関との連携に努めている。三重大、あすなろ、三重病院等の診察時に教員が同行し、学校での適切な支援に役立っている。 ○スクールカウンセラーの積極的な活用に努めている。	A	1, 2(1) 会議、研修会等の場を利用して、支援を必要とする児童の情報について常に共有し、共通理解を行ってきた。 1, 2(2) 個別の指導計画については、学期毎に評価をし、支援方法の見直しを行った。また事例検討会の話し合いをもとに指導方法について工夫をし支援を行っている。とくに支援を必要とする児童については校内特別支援教育委員会を開き、学習・生活面における支援体制を組んだ。 1, 2(3) 支援の必要性に応じ、スクールカウンセラー、専門機関、関係機関と連携しながら、支援・指導の充実を図った。(スクールカウンセラーへの相談件数は12月末までのべ保護者19件、児童4件) 3学期に保育園、幼稚園に向いて入学予定児の観察をするともに、保幼小中の連絡会議などで、次年度の支援を必要とする園児、児童について情報交換を行う予定である。	A	1 学級における適切な支援・指導の在り方について研修を深め、一人一人に応じた支援・指導に努める。 2(1) 引き続き支援を必要とする児童に対して学校全体で共通理解を図り、支援体制を組む。 2(3) 保幼小中で一貫した支援ができる体制をつくる。

総合評価については、A:達成度の過半数がA C:達成度の過半数がCまたはD B:AとCの間